

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばいを表しています。

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 28	33	百日咳	↑ 1	0
RSウイルス感染症	↓ 0	1	ヘルパンギーナ	↑ 204	178
咽頭結膜熱	↓ 20	26	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 35	39
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 84	74	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 369	289	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 13	20
水痘	↑ 49	48	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 2	9	無菌性髄膜炎	↑ 4	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↓ 1	2	マイコプラズマ肺炎	↑ 4	2
突発性発しん	↑ 64	52	クラミジア肺炎	→ 0	0

**報告が多い
感染症**

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 369 件(前週報告数 289 件)と増加した。地区別では、有明、山鹿、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の 58 件を最多に幅広い年齢層からの報告である。
- ヘルパンギーナは、報告数 204 件(前週報告数 178 件)と増加した。地区別では、人吉、菊池、八代に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 69 件を最多に主に7歳以下からの報告である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数 84 件(前週報告数 74 件)と増加した。地区別では、宇城、人吉、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、4歳の 18 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	5		11	39	104	14	1	1	21		41	10		13		3	2	
山鹿保健所			2	1	30	2			3			1	*	*				
菊池保健所	1		5	3	50	11			10		38							
阿蘇保健所				2	3								*	*				
御船保健所					6								*	*				
八代保健所	18			3	37	13			3	1	24							
水俣保健所				1	5	1			6		6	2	*	*				
人吉保健所				12	18				6		42		*	*		1		
有明保健所	1			4	77	4			7		21	3					2	
宇城保健所				16	19	2			4		12	8						
天草保健所	3		2	3	20	2	1		4		20	11						
計	28	0	20	84	369	49	2	1	64	1	204	35	0	13	0	4	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5歳	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	28			2	3	1	6		1	4		1	5		1		2		1		1
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	0																				
咽頭結膜熱	20		1	7	4	1	5			2											
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84		2	9	12	18	10	12	5		4	4			8						
感染性胃腸炎	369	7	32	47	40	37	28	30	19	23	13	13	58	5	17						
水痘	49			19	12	7	7	4													
手足口病	2		1			1															
伝染性紅斑	1						1														
突発性発しん	64	2	44	17		1															
百日咳	1								1												
ヘルパンギーナ	204	3	25	69	45	30	10	14	3	2	1	1	1								
流行性耳下腺炎	35			3	6	5	4	4	4	4	1	2	2								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	13													1	4	4	1	1	2		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	4			3				1													
マイコプラズマ肺炎	4		1	2	1																
クラミジア肺炎	0																				

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

- 感染性胃腸炎：熊本、菊池、有明
- ヘルパンギーナ：菊池、八代、人吉

ヘルパンギーナが8週連続で増加しています。

今週は定点からの報告数が200件を超えました。特に人吉、菊池、八代、天草地域では、警報レベルを超えて流行しています。昨年は7月中旬に報告数のピークを迎えています。現在報告の少ない地域でも、今後患者が増加することが予想されますので、感染予防に十分努めてください。

ヘルパンギーナは、夏に流行する小児の急性ウイルス感染症で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。発熱とのどにできる水疱性発疹が特徴で、急な発熱で発症します。2～4日ほど熱はさがり、その後発疹も消失し、ほとんどの場合経過は良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う発熱が2日以上続くなどが見られた場合は医療機関を受診するようにして下さい。

ウイルスは、患者の鼻や唾液、便などに存在し、回復しても数週間、便中にウイルスが排泄されます。一般的な予防は手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。外出後、食事の前やトイレの後は、流水と石けんで十分に手を洗い、タオルの共用はしないようにしましょう。保育園等小児の施設では、特に注意して予防に努めてください。

